

平成20年度第1回山形県立博物館協議会 記録

日 時 平成20年9月11日(木)
13:30～15:30
場 所 山形県立博物館講堂

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 山形県立博物館協議会長・副会長の選出

教育機関の組織及び運営に関する規則第54条の規定に基づき、
会長に丸山委員、副会長に日野委員を選出する。

5 報 告

(1) 平成20年度主要事業の進捗状況について

【日野副会長】夏休み体験教室「昔の学校・昔の遊び」の参加者がいなかったのは残念だが、どのような事情があったのか。

【高野副館長】会場を教育資料館としたが資料館の知名度が低かったためと、内容も子どもにとってはわかりにくかったためと考えられる。

【板坂委員】山形大学附属小学校では、夏休みに公開講座を開催したが100名の親子が参加した。ネーミングと内容の独自性が重要だ。博物館でしかできないプログラムを考えるべきだ。親子で参加できるように、平日の開催ではなく、土曜日、日曜日に開催することも必要ではないか。

【日野副会長】今年度から「博物館友の会」が発足したが、どのような事業を行うのか。

【高野副館長】現在、会員の拡大に努めている。博物館活動の支援・協力を柱に、講演や出版事業、会報の発行などを計画している。

【丸山会長】博物館ボランティアと「友の会」との関係はどうなっているのか。

【高野副館長】全く別の組織ではあるが、ボランティアで「友の会」の会員になっている人は多い。

【安達委員】「やまがたアートライン事業」で開設する予定のポータルサイトは、どの

ようなものになるか。

【高野副館長】アトライン事業で作成する共通パンフレットの情報をもとに、県博物館連絡協議会加盟館の基本情報を載せたり、加盟館のホームページにリンクできるようにすることなどを検討している。

【板坂委員】企画展等の広報はどうしているのか。

【高野副館長】ポスター、チラシ等を作成して学校、公民館等の公共施設やホテルなどに配布している。また、新聞やテレビを通じて広報には努めている。

【阿部館長】マスコミの活用をもっと図る必要があると考えている。

6 協議事項

(1) 山形県立博物館の今後の運営及びあり方について

【教育やまがた振興課長】10月から来年度予算の編成作業が始まるが、来年度の財政状況も厳しいことには変わりはない。知恵を絞って親しまれる博物館になるようにしていきたい。

収蔵庫内の昆虫標本の劣化については、補正予算を組み、除湿機の設置やくん蒸費用の増額で対処したいと考えている。

博物館の移転整備については、山形市の公園整備計画に伴い、平成35年までに現施設を撤去する計画だ。市営野球場は平成40年までに撤去すると聞いている。従って、博物館もこの時点までいられないことはないだろうと考えられる。もっとも、この問題について近々に動きがある見通しにはない。

【丸山会長】世界遺産プロジェクトや「やまがたアトライン」など県主導の事業が増えているが、予算の状況はどうなっているのか。

【教育やまがた振興課長】世界遺産プロジェクトには一定の予算がついている。「やまがたアトライン」も新規事業なので予算化されている。

【安達委員】利用者アンケートにあるように、洋式トイレへの改修はできないのか。バリアフリーの対応はどうなっているのか。

【阿部館長】1階男子トイレに洋式が1つあるほか、女子トイレに、車イス対応の洋式トイレがあるが、男性の障がい者はもちろんのこと、女性の健常者にとっても使いづらいのではないかと思われる。なお、2階は全て和式である。

【教育やまがた振興課長】補修・改修等については緊急性の高いものから優先順位をつけて予算化していく。現状を見たうえで検討していきたい。

【日野副会長】常設展示の改修計画等はあるのか。

【高野副館長】大規模なりニューアル計画はないが、ラベルや写真の更新などできる所から改善は行っている。

【阿部館長】ボランティア日誌によれば、第一展示室がちょっとした工夫で改善されて解説がやりやすくなったということだった。

【日野副会長】常設展示も少しかわると、印象がだいぶ変わるのでよろしく願いする。

【板坂委員】山形美術館など近隣施設との連携を図り、たとえば、霞城公園一帯の文化ゾーンをつくれば、誘客に資するのではないか。

【丸山会長】施設間の点と点を結んで線にすることが重要だ。共通入館券でバスを利用できるなど、工夫する必要がある。

【安達委員】山形市内には、日本一の芋煮会の鍋など、観光資源となり得るものがたくさんあるので活用を図りたい。山形市などとも連携が必要だ。

【教育やまがた振興課長】その点は、県の観光振興課なども、町そのものを観光資源、文化資源として着目していると思う。

【日野委員】文翔館の「友の会」は財政事情等により解散した。発足した「博物館友の会」を大切に育ててほしい。

【丸山会長】外部からの競争的研究資金獲得について学芸員・研究員の動きはあるのか。「研究報告」の最近の発行状況はどうなっているか。

【高野副館長】一昨年発行した「研究報告」は本館のホームページに掲載した。昨年度分も近々アップする予定である。今年度分はこれから原稿を募集する。研究資金をもらえるような取組みは特にしていない。

【教育やまがた振興課長】競争的研究資金獲得については、今後、検討してみる価値はあると思う。

【日野副会長】 昨年は、「山形町並み探検」という文翔館と県博との連携事業を行い好評だった。今年度も何らかの形で連携を再開したい。

【丸山会長】 連携事業で学芸員・研究員の負担は増えることにはなるが、人的なネットワークが広がることにもつながる。

【阿部館長】 本館所蔵の「西ノ前土偶」が、大英博物館での展示会に出展される予定だ。来年度早々に、それを記念して本館でも展示会を開催する予定である。

(閉会)